

メールマガジン 2024年9月

日本は依然として極暑が続き、体力的にも精神的にも限界を覚えている方が多くいらっしゃるのではないかと案じております。主のお支えと共に一日も早く過ごし易い日が訪れますようにお祈りしています。ケルンでは、急に朝晩10度を下回るようになり、秋を通り越していきなり初冬がやってきたような感じです。世界の至るところで気候変動が与える大きな影響を目の当たりにしています。

私は先週、夏季休暇を頂き東ドイツ・ドレスデン近郊で過ごしました。お天気にも恵まれ、全てが整えられて、ドイツでの最後の夏休みに相応しい旅路となったような気がします。時を与えてくださった主と教会の皆様、日本で支えてくださっている方々に感謝でいっぱいです。歴史や政治に疎い私ですが、ドイツの東西分裂の背景や未だに残っている社会主義の爪痕を垣間見て、ケルン近郊にはない空気に触れることができ、様々なことを考えさせられる休暇となりました。

以前、ママの会に参加されていたご家族が5年前に日本へ本帰国されましたが、その後、また欧州に戻ってこられ、現在はプラハに住んでおられます。滞在していた場所から電車で2時間弱で行ける距離だったので、訪問することができました。お子さんはケルンにいらした頃は、クリスマスページェント礼拝の時にマリアさん役を担った可愛い少女でしたが、来年は高校生になる素敵なお嬢さんとなって、その成長振りには驚くばかりでした。ママの会を立ち上げた当初のご家族でしたので、再会は格別なものとなりました。

懐かしい思い出話と共にプラハ市内を案内して頂き、未だに残っている共産主義のお話をお聞きすることができました。現在、プラハ市内の教会の殆どが、教会としての機能は果たしておらず、教会維持のためにコンサートが行われています。講壇の場がパイプオルガン演奏の場となっており何とも奇妙な風景…。また共産主義時代に教会を排除する目的で、教会の前に大きな建物が立てられている風景も目にしました。教会が主を礼拝する場であるケルンに戻ってきてホッとしたものです。しかし、ドイツも危ういものがあります。先日、ドイツ・ザクセン州で行われた選挙では、キリスト教主義党派が惨敗し、国粋主義の党が勝利したことにより、「キリスト教国ドイツ」といえなくなることを懸念している方が多くおられます。

さて、今回の夏期休暇で、思いもよらない出会いが与えられ、日本への帰国が主によって備えられていることを確信した旅ともなって、恵み豊かな時に感謝しています。残された日々、改めて主と教会にお仕えして参りたいと願っています。そのためにも、これからもお祈り頂けると幸いです。

皆さまにおかれましては、ご健康が支えられて爽やかな秋をお迎えますようにお祈り申し上げます。

「支える会」のホームページにはドイツの様子がわかる写真も掲載しています。過去のメールマガジンも見やすくなりましたので、是非ご覧ください。 <https://www.komatsugawa-ch.com/Pfarrerin-Ryokosasaki/mailmagazine>

聖母教会・Dresdner Frauenkirche

ドイツ福音主義教会（ザクセン福音ルーター派州教会）
教会の前はマルチン・ルーター像

コンサートホール化したプラハの教会 🎻



9月8日の礼拝をお捧げしました。マタイ6:25～34より、人々の教会離れが続いて憂慮すべきことだが、人間の思いで考えるのではなく、先ず、神を求めよというメッセージ。アーメン！
集っている殆どの人が礼拝者で、皆様しっかりと讃美歌を歌っていました。

講壇の場所でパイプオルガンを演奏している奇妙な風景 🎻

